

徳島県吉野川流域における『声の言語地図』作成の試み

峪口有香子ⁱ・Abdunabi Ubulⁱⁱ・大泉誠治ⁱⁱ・陳英ⁱⁱ

(ⁱ徳島大学大学院 総合科学教育部 地域科学専攻 日本学術振興会特別研究員 DC1)

(ⁱⁱ徳島大学大学院 総合科学教育部 地域科学専攻)

The Attempt of Creating “Speaking Linguistic Atlas” in Tokushima Prefecture Yoshino River Basin

Sakoguchi Yukakoⁱ, Abdunabi Ubulⁱⁱ, Oizumi Seijiⁱⁱ, Chen Yingⁱⁱ

ⁱRegional Sciences, Graduate School of Integrated Arts and Sciences, The University of Tokushima, Japan

JSPS Research Fellow (DC1)

ⁱⁱRegional Sciences, Graduate School of Integrated Arts and Sciences, The University of Tokushima, Japan

Abstract

This study aimed to create a Speaking Linguistic Atlas of disappearing dialects in Tokushima Prefecture Yoshino River basin. In addition, a digital archive for the purpose of storage and recording of the dialect speech through a linguistic geography survey was actualized. The "Speaking Linguistic Atlas" added to a multimedia database using the dialect speech was published on the Internet. Dialect audio obtained in this study was placed in the monitoring sites on a map. The user clicks the desired location on the map where a window will open with a feature that allows the user to listen to the recording. We fulfilled the purpose of actualizing a digital archive of a disappearing dialect, which is a widely well-known cultural assets. This archive preserves the dialect permanently.

By publishing this archive on the Internet, it becomes possible to spread and preserve various traditional dialects around the country. With a multilingual website, it also becomes possible to introduce a variety of Japanese dialects to people around the world. We introduce an example of creating a "Speaking Linguistic Atlas" with the search engine Google to promote the digital archiving of voice dialect material using the web delivery system and information processing technologies with images and videos.

Key Words : Speaking Linguistic Atlas, Digital Archive, Google Maps, Regional Dialects, Dialect Distribution

1. はじめに

2009年より、ユネスコによって奄美・琉球方言や八丈島方言などが消滅の危機に瀕する言語として注目されているが、日本列島全体の伝統方言も同時に消失の一途を辿っていることに変わりはない。

各地の僻地・離島の方言はいまや八丈語や奄美・琉球語と同様、消滅寸前の状態にあり、危機言語であるという認識のもと、これらの方言の記述と保存に根ざした研究を行う必要があると思われる。

世界に目をむけると、ドイツ¹やイタリア²で試みられている、Speaking Linguistic Atlas (『声の言語地図』と訳す) のように、言語地図の各調査地点に記された言語形式を表す記号をクリックすると、各地の方言音声を聞くことができるといった研究が進められている。こうした取り組みは、インターネット上での言語地図の公開というだけでなく、いずれも方言音声を組み込んだ仕様となっており、方言形式と方言音声の保存を目指したものである。

一方、近年日本の方言地理学的研究においても、方言音声を言語地図上に組み込む研究が始まっている。例えば、インターネット上でのデジタルアーカイブ化には至っていないものの、岸江ほか(2002・2005)による『声の言語地図』は、言語地図上の各調査地点で収録した音声を、pdf ソフトを用いてリンクさせ、pdf ファイル形式で DVD での配信を行っている。各地の生え抜き話者が実際に発音した方言音声を言語地図上の各地点に埋め込み、言語形式と方言音声を同時に提示するという試みは、方言の記録と保存という観点から重要である。

しかしながら、日本の方言研究は今、隆盛を極めており、各地の記述研究は進みつつあるものの、「なま」の「方言音声」がこうした動向をうけ公開されているとは言い難い状況である。

本研究では、方言音声の保存に主眼を置き、徳島県吉野川流域において行った言語地理学的調査で収録した方言音声をもとに Google Maps を利用し、『声の言語地図』の作成を行った。Google Maps を利用した『声の言語地図』(Speaking Linguistic

Atlas)』は先述したイタリアの VIVALDI の成果のようにネット上にすでに試作されており、本研究では特にこの成果を参考にした。

吉野川流域における『声の言語地図』は、やがて消えるであろう、吉野川流域各地の伝統方言の音声の記録と保存を目指すとともにネット上でのデジタルアーカイブ化の完成をはかることを目的としている。

本稿では、この新たなシステム構築の方法に触れながら日本語のみならず、英語・韓国語・中国語といった多言語での『声の言語地図』のデジタルアーカイブ構築の手順について、紹介する。

2. 調査概要

当調査は徳島県吉野川流域において約120項目(音声・音韻項目、基礎語彙、民俗語彙、文法・表現法など)からなる調査票(本稿末に掲載)を用い、約160集落で面接による言語調査を実施した。各地の教育委員会、公民館へ話者の斡旋を依頼し、原則として各地の生え抜きで70歳以上の方々を対象とした。調査員は徳島大学の日本語学研究室のゼミ生および共通教育科目『日本語の音声』の受講生で、相互に連携して調査を行った(表1参照)。また、これに加え、各面接調査ではICレコーダーに話者の回答をすべて収録した。

表1 研究計画表

| | |
|-------------|---------------------------|
| 2013年4月～5月 | 調査計画(調査票選定・調査地点決定・調査依頼など) |
| 2013年6月～11月 | 調査実施 |
| 2013年9月～11月 | データ整理・音声編集・地図化 |
| 2013年11月22日 | プロジェクト研究Ⅱ中間発表会 |
| 2014年2月12日 | プロジェクト研究Ⅱ成果発表会 |

まず、地図作成には、ESRI社のArcGISを用い、行政界や地形などの地理空間情報を重ね合わせ、デジタル地図化を行い、『吉野川流域言語地図』完成させた³。さらに、これとは別にGoogle Mapsを利用した『声の言語地図』の作成を試みた。以下では、主に後者の作成手順について触れることにする。

¹ Speaking Linguistic Atlas of Vabaria
<http://www.bayerische-landesbibliothek-online.de/speaking-linguistic-atlas-of-bavaria> (2014年1月25日アクセス)

² VIVALDI, Vivaio Acustico delle Lingue e dei Dialetti d'Italia
<http://www2.hu-berlin.de/vivaldi/> (2014年1月28日アクセス)

³ 日本語学研究室では2014年3月に『徳島県吉野川流域言語地図』成果報告書を作成し刊行している。

3. Google Mapsの汎用性

一般の地図は、これまで紙によるものが主であったが、近年、電子情報化が進み、デジタルマップをインターネット上で閲覧できるようになってきている。一般利用者向け電子地図サービスとしては、Google社やYahoo社などに代表されるインターネット検索サービスが2005年6月から地図情報に関する検索アプリケーションを無償で提供したことで広く利用されるようになった。それまでは有料であったため、個人の利用も限定され、企業向けと考えられていた地図が、一般利用者の間で電子地図サービスの無償利用が行われるようになった点はその要因である。

Google社が提供している、Google Maps APIとは、Google Mapsで提供されている機能をカスタマイズして、一般に公開されているWebサイトに埋め込んで使用することができるサービスのことである。CNET ジャパン⁴によればGoogle Maps APIを利用しているWebサイトはすでに80万以上に達している。また、地図をはじめとする地理空間情報の市場規模は、2013年には10兆円規模にまで拡大している。さらに、モバイル端末スマートフォンなどの普及に伴い、一般的な地図情報の需要が伸びているだけではなく、ITを駆使した地理空間情報のニーズが昨今急速に強まってきている。

一般的な利用目的としては、地図上での店舗や位置情報の表示であるが、これはGoogle Maps APIの利用形態のごく一部でしかない。Googleの地理空間情報に関するソリューションは、プラットフォームからアプリケーションまで、きめ細かくビジネスの需要に応じたサービスが提供されており、先進的な様々な活用事例も急速に蓄積されつつある。Googleが提供している無償APIを利用したサービスは、その他の独自機能をいかに付けられるかが大きなポイントになっている。Google Maps APIを使うことにより、Google Mapsで提供されている「地図の埋め込み」機能よりも自由度が高くオリジナルの地図を作ることが可能である。

そこで本研究は、Google Maps APIを利用し、『声の言語地図』を作成する。以下にその手順を示す。

4. 方言音声の収録

吉野川流域の各集落で約160人の生え抜き話者に面接して方言音声を収録したが、この中で利用できたのは113人分のデータであった。その理由は、音声変換に不具合が生じていたり、音声データの発話者が不明であったりしたためである。また、音声を収録時の周囲の環境などにより、ノイズが混入しているものも多くあった。フィールド調査であるため、その場で周囲の環境を即座に改善することができない場合が多い。ただ、『声の言語地図』の作成にあたって重要なのは、できる限り、高品質の音声を録音することが望ましい。今回のように、短期間で吉野川流域の多人数の話者を、これまた、多くの調査員で調査するというような状況では、なかなかこのことを実現することは難しい。

5. 『声の言語地図』作成について

本研究で構想した『声の言語地図』は、インターネット上に公開した方言音声を利用したマルチメディアデータベースを指している。地図上に調査地点を配置し、コンピュータ上で各地点の記号（言語形式を表す）をクリックすることによって各地で得られた方言音声を聞くことができるという特色がある。その作成方法を簡単に説明する（図1参照）。

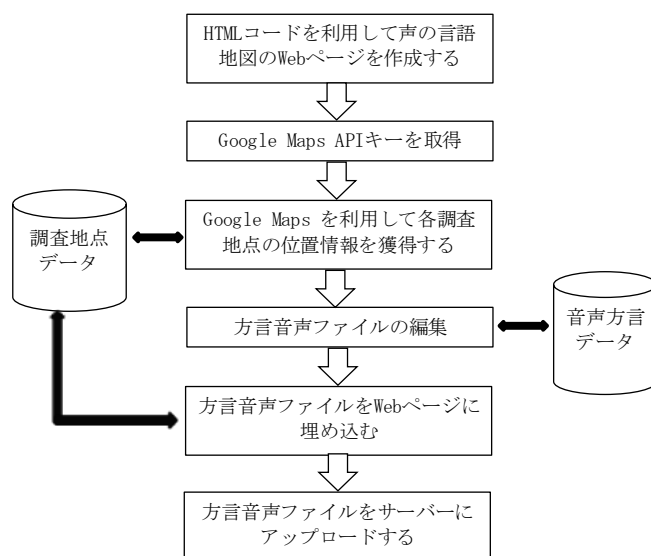


図1 『声の言語地図』の構成

⁴ CNET Japan, http://japan.cnet.com/extra/google_201212/35024956/ (2014年1月28日アクセス)

5-1. 地図のマーカー表示について

手順1: Google Maps APIをhead要素内で読み込む。

手順2: 地図の表示領域と地図サイズを指定する。
地図を表示する領域は、body要素内にdiv要素で指定する。div要素には任意のID名を付け、地図のサイズを定義する。このID名は、地図を生成する際、Mapオブジェクトの第1引数に指定する。

手順3: 緯度・経度をGeocoding APIで取得する。
ここでは、徳島県の緯度・経度（世界測地系WGS）を取得している。

手順4: 地図にマーカーを立てる（図2参照）。マーカーは徳島県吉野川流域の方言調査地点を示す。



図2 マーカー表示

5-2. 方言音声ファイルのアップロードについて

方言音声ファイルをサーバーへアップロードするには、Voiceditor、FLASH、FTTPのソフトを使用する。設計の手順は、以下の通りである。

手順1: 方言音声ファイルを認識させるため音声編集ソフトを用い、方言音声ファイルをMP3に変換する。録音した方言音声ファイルをストリーミング用にエンコードしたファイルを作成する。エンコードするには、エンコーダ（ファイル変換ツール）を用いる。

手順2: FLASH editorを利用して方言音声ファイルをGoogle Maps上の各調査地点に埋め込む。

手順3: 収集した方言音声をインターネット上で組み合わせる。

図3の地図上に表示されている、マーカーをクリックすると、情報ウィンドウに調査地名と方言音声を再生できるシステム、およびIPA⁵が表示される。再生ボタンをクリックすると、その土地で収録した方言音声が流れるという仕組みである。

以上のような手順をふみ、Google Mapsをカスタマイズし、『声の言語地図』の作成を行った。

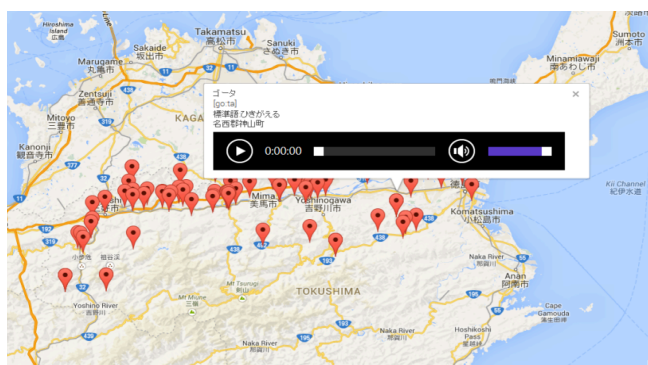


図3 ウィンドウ表示画面

6. 『声の言語地図』の使用方法

ここからは、使用方法について紹介する。まず、図4・図5が『声の言語地図』が閲覧できるWebサイトの日本語版と英語版のトップページである。国内外の研究者にも発信できるように、日本語・英語の他にも中国語・韓国語と合計四カ国語の表示切り替えが出来る。



図4 日本語版 Web トップページ

⁵ IPA (International Phonetic Alphabet) とは、国際音声記号のことで、あらゆる言語の音声を文字で表記すべく、国際音声学会が定めた音声記号のことである。

るようにシステム作成を行った。

トップページにおけるタブの切り替えで、「音声地図(語彙・表現法)」と「音声地図(アクセント)」とに項目が分けられている。

「音声地図(語彙・表現法)」をクリックすると、項目毎にGoogle Mapsが切り替わる仕組みになっている。例えば、「音声地図(語彙・表現法)」の中の「じゃがいも」の項目をクリックすると、「じゃがいも」のWebページに切り替わる。各地点のマーカーをクリックすると、情報ウィンドウが表示され、方言音声の再生ボタンが現れる。このボタンを押すと、各地の生え抜きの方音声を聞くことができる。



図5 英語版Webトップページ

7. 本研究の意義

日本においては、これまでデータベースという観点から方言音声を整理しようとした研究はあるものの、なまの方言音声を言語地図上に反映させ、インターネット上で本格的に公開するまでには至っていない。本研究では、徳島県吉野川流域を対象とした言語地理学的研究の成果として、従来の言語地図に、方言音声を組み込んだ『声の言語地図』の作成を試み、方言の危機言語の保存が世界中で問われている今、言語の記述とともに言語音声を同時に提示することが重要である。

今後は、Google Maps APIを利用し、オリジナルの『声の言語地図』を徳島県のみならず、地域を拡大し、データベースによるシステムと連携することで、拡張性を持たせていく予定である。また、方言音声の公開から方言音声のダウンロードまでが可能になるよう、更なるシステム開発を進める予定であ

る。インターネット上で方言音声を公開・ダウンロードできるシステムを構築することによって、国内外の、多くの言語研究者と連携を深めていきたい。

<付記>

本稿の各節の執筆分担を以下に記す。

「1. はじめに」(峪口)、「2. 調査概要」(大泉)、「3. Google Mapsの汎用性」(峪口)、「4. 方言音声の収録」(陳)、「5. 『声の言語地図』作成について」(Abdunabi)、「6. 『声の言語地図』の使用方法」(峪口)、「7. 本研究の意義」(峪口)。その他、全体の整理および編集は峪口が行った。

本稿はJLVC2014 国立国語研究所時空間変異研究系合同研究発表会(2014年3月21日、国立国語研究所)において、峪口有香子とAbdunabi Ubulが発表した内容に加筆、修正したものである。発表内容に関しては研究会の皆様から貴重なコメントを頂いた。

また、本文で紹介した『声の言語地図』の作成に関して、本学大学院総合科学教育部博士後期課程の孫立民氏に技術面で多大なるご教示を頂いた。

さらに本稿をなすにあたり、塚本章宏先生には終始懇切丁寧なご指導を賜った。

ここに記してみなさまに感謝の意を表したい。

<参考文献>

板橋秀一(1992)「文部省「重点領域研究」による音声データベース」『日本音響学会誌』48巻 12号 日本音響学会

今石元久(2005)『音声研究入門』和泉書院

勝又雅史(2012)『Google Maps API プログラミング入門 改訂2版』ASCLL

勝又雅史・古籾一浩・石丸健太郎・安藤幸央(2011)『Google API Expert が解説する Google Maps API プログラミングガイド』インプレスジャパン

かりまたしげひさ(2005)「琉球音声データベース—消滅に瀕する琉球語の記録・保存—」『音声研究』

vol.9 No. 3 日本音声学

木部暢子 (2009) 『西日本声の言語地図 諸方言イントネーション・データ集』 科研報告書

岸江信介・石田祐子 (2005) 「声の言語地図」『音声研究』 vol.9 No. 3 日本音声学

岸江信介・木部暢子・石田祐子 (2002) 「声の言語地図 (特集いま言語地図を考える)」『日本語学』 21 (11) 明治書院

岸江信介・玉真之介・掛井秀一・清水勇吉・峪口有香子・澤周作・塩川奈々美・森岡裕介・天満啓貴 (2014) 『徳島県吉野川流域言語地図』 (平成25年度総合科学部創生研究プロジェクト成果報告書) 徳島大学大学院ソシオ・アーツ・アンド・サイエンス研究部日本語学研究室

国立国語研究所 (1989) 『方言文法全国地図 第一集—助詞編—』 大蔵省印刷局

小西いずみ・三井はるみ・井上文子・岸江信介・大西拓一郎・半沢康 (2007) 『方言学の技法』 (シリーズ方言学4) 岩波書店

陣内正敏 (2003) 『コミュニケーションの地域性と関西方言の影響力についての広域的研究』 科研報告書CD-ROM

杉藤美代子・笈一彦 (2005) 「DVD版「日本語音声データベース」の完成」『音声研究』 vol.9 No.3 日本音声学

日高水穂 (2005) 「『CD-ROM版秋田ことば』の音声収録と表記の方針」『音声研究』 vol.9 No.3 日本音声学

文部科学省大学共同利用機関メディア教育開発センター著 (2002) 『CALL副教材シリーズ日本語韻律

II アクセントの多様性と変遷』 文部科学省大学共同利用機関メディア教育開発センターCD-ROM

藤原与一 (1993) 『日本語学シリーズ (1) 実用音声学』 武蔵野書院

<参考URL>

<http://www.ncc-1701.jp/abdunabi211/tokushimavoicemap.html>

2013 年度 プロジェクト研究II 吉野川方言調査票

次の質問に答えていただいたあと、ゆっくりと二度発音してください。話者が回答したあと、では「そのことばを2度ゆっくり発音して下さい」と依頼する。

1. 畑などにいる非常に大きい種類のカエルです。身体にイボがあり、茶色をしています。これを何と言いますか。

(絵) (ひきがえる)

2. こういう虫を何と言いますか。前足が草を刈るかまに似ています。怒るとそれを振り立てて、向かってきます。色は緑とか茶色など。(絵) (かまきり)

3. この生き物のことを何と言いますか。背中に大きな殻 (から) を背負っています。(絵) (かたつむり)

4-1. これは、松の実です。これを何と言いますか。

(絵) (松の実)

4-2. これは、枯れた松葉です。これを何と言いますか。

(絵) (枯れ松葉)

5. これは何と言いますか。夏の終わりごろとれます。うすい緑の皮があつて赤い毛のふさがついています。

(絵) (とうもろこし)

6. こういう芋 (いも) を何と言いますか。夏の初めと秋と一年に二度とれます。(絵) (じゃがいも)

7. これは何と言いますか。秋の終わりに取れます。茎 (くき) はつるになって地面に広がります。(絵) (さつまいも)

8. これは何と言いますか。茶色の毛が生えていて、煮るとぬるぬるします。いろいろな種類があり、クキの食べられるものもあります。ひつくるめて何と言いますか。(絵) (さといも)

9. これを何と言いますか。夏にとれる、つるになる大きな実です。(絵) (南瓜)

10. これを何と言いますか。桑の木になる実を何と言いますか。

(絵) (桑の実)

11. 「かかと」のことを何と言いますか。(絵) (踵)
12. 「髪の毛の抜けてしまった頭」のことを何と言いますか。
(絵) (はげ頭)
- 13-1. 目のふちのできる「腫れ物 (はれもの)」です。共通語では「ものもらい」と呼ばれます。3日4日もたつと自然に治ります。地元のことばでどう言いますか。(絵) (ものもらい)
- 13-2. では、この「ものもらい」を治すまじないについて知っていたら教えてください。(「ものもらい」の民間治療法)
14. 頬 (ほほ) のことを何と言いますか。(ほほ)
15. ひどくなくぐられたり、どこかでひざなどを打った時、そこが青黒くなって、二、三日あとが残ることがあります。そういうふうに変わることを、どうなる、何ができると言いますか。(あざ・あざになる)
- 16-1. 東はどちらの方角ですか。では東の方向から吹いてくる風のことをどう言いますか。(東風)
- 16-2. では、南の方向から吹いてくる風のことをどう言いますか。(南風)
17. 夏の初めごろ、雨の長く降り続く時期があります。その雨のことを何と言いますか。(梅雨)
18. 日が照って晴れているのに降っている雨のことをどう言いますか。(日照り雨)
19. (時期に関係なく) 突然降ってくる雨のことを何と言いますか。(夕立)
20. 夕立が降る時などにぴかりと光って、ごろごろと音がなります。近くに落ちることもあり、たいへん怖いです。何が鳴っていると言いますか。(雷)
21. 空にかかる七色の帯のようなものです。これを何と言いますか。夕立のあとなどに見られます。(虹)
22. 「竹で編んだカゴ」をどう言いますか。(竹かご)
23. 「あほ」、「ばか」というのはここでは普段どう言いますか。(馬鹿)
24. 「馬鹿にする」という場合、ここではどう言いますか。(馬鹿にする)
25. 「よく働く人」のことをどう言いますか。(よく働く人)
26. 「仕事をしない人」のことをどう言いますか。(怠け者)
27. 「仕事が遅い人」のことをどう言いますか。(仕事が遅い人)
28. 「お金持ち」をどう言いますか。(金持ち)
29. 「うそを言う人」をどう言いますか。(うそを言う人)
30. 活発(かっぱつ)に動き回る女の子のことを何と言いますか。(おてんば娘)
31. 頭のよい、よく勉強のできる子を、どんな子だと言いますか。

(賢い子)

- 32-1. 現在は「葬式」というところが多いのですが、死者をほむむるための儀式(ぎしき)を昔は何と仰いましたか。(葬式)
- 32-2. 現在は「お通夜」というところが多いのですが、昔は何と仰いましたか。(お通夜)
- 32-3. 現在は村や町の共同墓地を「墓地・墓場」というところが多いのですが、昔は何と仰いましたか。(墓地)
33. 「大声で叫ぶ」ことを何と言いますか。(叫ぶ)
34. 家で主婦が主人に内緒で「こっそりたくわえるお金」のことを何と言いますか。(内緒金)
35. 水が入れ物にいっぱいになっている時、水があふれ出ることをどう言いますか。(水が) あふれる)
36. それでは、お金を両替したい時、例えば、「1万円を千円札にしてほしい」というとき、この1万円をどうしてほしいと頼みますか。(両替する)
37. 「邪魔になるけん、そこをどいてくれ」という場合、「邪魔になる」の部分は何と言いますか。(邪魔になる)
38. 「この機械をいじくるな」というとき、「いじくる」というのをどう言いますか。(いじくる)
39. 子供がいたずらをした時に、その子のほほや手などを指でつまんでひねることを、どうすると言いますか。(つねる)
40. 腋(ワキ)の下をちょちょとすることをどうすると言いますか。(くすぐる)
41. では、そのようにされたほうは、「ああ、くすぐりたい」ということになりませんが、「くすぐりたい」というのをどう言いますか。(くすぐりたい)
42. 「この時計、落としたけん、壊れた」という場合、「壊れた」の部分は何と言いますか。(壊れた)
43. 「押入に全部片づける」という場合、「片づける」というのをどう言いますか。(片づける)
44. ゴミをゴミ箱へポイとすることをどう言いますか。(捨てる)
45. 「お腹がいっぱいになった」、「腹がいっぱいになった」というのを普段どう言いますか。(お腹がいっぱいになった)
46. 「あの人はいつもおもしろい」という場合、「おもしろい」というのをどう言いますか。(面白い)
47. 次のような言い方を使用しますか。「じれったい・いらだたしい」というのを「キドイ」とか「キシンドイ」とかいうことがありますか。どう言いますか。(キドイ・キシンドイ)
48. 独り言で、「さあ、もう起きよう」という場合、「起きよう」というのをどう言いますか、オキョーではなくてオキョーということはありませんか。(オキョー)
49. 「500円で昼飯代は足りた」と聞く場合、「足りた」の部分はどう言いますか。(足りた)

50. 「隣で昨日傘を借りた」という場合、「借りた」の部分をどう言いますか。(借りた)
51. 「財布を落とした」という場合に「落とした」の部分をどう言いますか。(落した)
52. 「車が急に出てきて驚いた」という場合、「驚いた」の部分をどう言いますか。(驚いた)
53. 「今日はテレビを見るか」と家の人から聞かれて、「見ない」と言う時、どう言いますか。(見ない)
54. 昨日はテレビを見たかと聞かれて、「見なかった」という場合、どう言いますか。(見なかった)
55. 「今日は仕事をするのか」と家の人から聞かれて、「しない」と言う時、どう言いますか。(しない)
56. 子供たちに「もうこれ以上、けんかをしてはいけない」と注意する場合、「してはいけない」のところをどう言いますか。それでは「けんかをしてはいけない」とここの方言で言ってみて下さい。(けんかをしてはいけない)
57. 「勉強しなかったらいい点がとれないよ」という場合、「しなかったら」の部分をどう言いますか。(しなかったら)
58. 「ぜいたく品は買わなくてもよい」という場合、「買わなくても」の部分をどう言いますか。(買わなくても)
59. 「今日あの人は来ない」という場合、「来ない」というのをどう言いますか。(来ない)
60. 「今日は仕事に行かないよ」という時、「行かない」の部分をどう言いますか。(行かない)
61. 「きのうは仕事に行かなかった」という時、「行かなかった」の部分をどう言いますか。(行かなかった)
62. 弟や妹が朝、学校に行く前になってカギがないといって探しています。机の下をみると、そこに落ちているのに気づいたので、「ほら、そこにあるじゃないか」という場合、「あるじゃないか」の部分をどう言いますか。(あるじゃないか)
63. 半袖のシャツを家の目下の人(子供や妹・弟など)が探しています。「押入にあるんじゃないの」と教えてやるとき、「あるんじゃないの」という部分をどう言いますか。
(あるんじゃないの)
64. それでは、そこにカギがおいてあると言ったのにどこを探してもないじゃないかという場合、「ないじゃないか」というのをどう言いますか。(ないじゃないか)
65. 「今晚楽しみにしていたテレビは用事で見るができない」という場合、「見るができない」の部分をどう言いますか。
(見るができない 状況不可能)
66. この番組は「恐怖映画なので恐ろしくて見るができない」という場合、「見るができない」という部分をどう言いますか。(見るができない 能力不可能)
67. 「明日、私の代わりに役場へ行くことができるか」と聞かれて、「行くことができる」という場合、「行くことができる」の部分をどう言いますか。(行くことができる)
68. それでは、「きのうは仕事に行くことができなかった」という時、「行くことができなかった」の部分をどう言いますか。
(行くことができなかった)
69. それでは、「明日は5時に起きることができるか」と聞かれて、「そんな早くには起きることができない」という場合、どう言いますか。(起きることができない)
70. それでは、「あの人は今日用事で来られない」という場合、「来られない」のところをどう言いますか。(来られない)
71. それでは「長く待たせられどうとうあの人は来ることができなかった」という場合、「来るができなかった」のところをどう言いますか。(来るができなかった)
72. それでは、同じく母親に向かって「隣のおじいさんが来た」という場合、「来た」の部分をどう言いますか。
(「隣のおじいさんが」来た)
73. 母親に向かって「今朝、校長先生が来た」という時、「来た」のところをどう言いますか。(「隣のおじいさんが」来た)
74. それでは、母親に向かって「近所の小学生が来た」という場合、「来た」の部分をどう言いますか。(「近所の小学生が」来た)
75. 同じく母親に向かって「郵便屋さんが来た」という場合、「来た」の部分をどう言いますか。(「郵便屋さんが」来た)
76. 同じく道で出会った「近所の小学生」に家に来たかどうか直接尋ねるとします。この場合はどうでしょうか。「今朝、うちに来たか?」と聞く場合、「来たか」の部分をどう言いますか。
(「近所の小学生が」来たか)
77. 「このスイカ、赤くないねえ」という場合、「赤くない」の部分をどう言いますか。(赤くない)
78. 「成績が上がったので嬉しくて仕方がない」という場合、「嬉しくて」の部分をどう言いますか。(嬉しくて)
79. 「方言もだんだんなくなるねえ」という場合、「なくなる」の部分をどう言いますか。(なくなる)
80. 「もう食べるものがこれだけしかない」という場合、「これだけしか」の部分をどう言いますか。(これだけしか)
81. 「みんなにみかんを一つづつやろう」という時、「一つづつ」の部分をどう言いますか。(一つづつ)
82. 「今日はいいお天気だから傘なんかいらない」という場合、「傘なんか」のところをどう言いますか。(傘なんか)
83. 「リンゴを皮ごと食べた」という時の「皮ごと」の部分をどう言いますか。(皮ごと)
84. それでは、「きょうは雨だ」という場合、「雨だ」の部分をどう言いますか。(雨だ)

85. それでは、「きのうは雨だった」という場合、「雨だった」の部分はどう言いますか。(雨だった)
86. それでは、「あしたは雨だろう」という場合、「雨だろう」の部分はどう言いますか。(雨だろう)
87. 「昔はこの川の水はきれいだった」という場合、「きれいだった」のところはどう言いますか。(きれいだった)
88. 親しい友人に「明日は学校、休みか」と聞く時、「休みか」のところはどう言いますか。(休みか)
89. 「あと10円しかない」という場合、「しか」の部分はどう言いますか。(10円しか)
90. 「10円もない」、「10円すらない」という場合、どう言いますか。(10円しか・10円すら)
91. 「危ないから行くな」という時、「危ないから」の「から」の部分はどう言いますか。(危ないから)
92. 「今日は帰るけれども明日また来るよ」という場合、「けれども」をどう言いますか。(けれども)
93. 「風が強いので、ほこりが多い」という時の「強いので」の部分はどう言いますか。(強いので)
94. 「子供なのでよく分からなかった」という場合、「子供なので」の部分はどう言いますか。(子供なので)
95. 安倍総理について何か知っていることはあるかと聞かれて「何にも知らない」と答える時、「何にも」のところはどう言いますか。(何も)
96. 窓を開ければ雪が降っています。その時、雪がどうしていると言いますか。(雪が降っている)
97. 窓を開ければ却って降った雪が残っています。その時、雪がどうしていると言いますか、「降る」という言葉で言って下さい。(降っている)
98. 魚が川で泳いでいるという時、「泳いでいる」というのをどう言いますか。(泳いでいる)
99. さっきまで火がついていたロウソクが消えています。あれ、ロウソクがどうしていると言いますか。(消えている)
100. 「ご飯が食べずに残してある」という場合、「残してある」の部分はどう言いますか。(残してある)
101. 「あそこの店は商売が繁盛しているねえ」という場合、「繁盛しているねえ」のところは方言でどのように言いますか。(繁盛している)
102. 「商売している」という場合、「商売している」の部分はどう言いますか。(商売している)
103. 「うちは農業だ」という場合、「農業」の部分はどう言いますか。(農業)
104. 「地元でとれる農産物」という場合、「地元でとれる農産物」の部分はどう言いますか。(地元でとれる農産物)

105. 「農地が荒廃している」という場合、「荒廃している」の部分はどう言いますか。(荒廃している)

アクセント調査表 (読み上げ表)

次のことばを普段話す調子で読んで下さい。

犬。犬がなく。去 (い) ぬ。もういぬわ。鼻。鼻が赤い。花。花が赤い。耳。耳が赤い。冬。冬が来る。音。音がする。山。山に登る。牛。牛がおる。馬。馬がなく。親。親が喜ぶ。腕 (うで)。腕が太い。貝。貝を食べる。鬼。鬼がわらう。靴 (くつ)。靴をはく。雲。雲が出る。網 (あみ)。網をはる。塩。塩をまく。毒。毒がまじる。家。家に帰る。色。色がうすい。豆。豆を植える。蜘蛛 (くも)。蜘蛛が動く。腹。腹をかかえる。墓 (はか)。墓に参る。舌 (した)。舌を出す。稲 (いね)。稲をかる。種。種 (たね) をまく。秋。秋がくる。猿。猿が落ちる。男。男がおる。宝。宝がある。油。油がでた。枕 (まくら)。枕がほしい。ウサギ。ウサギがはねる。ネズミ。ネズミがかじる。サイコロ。サイコロを振る。あめ玉。あめ玉をなめる。ゾーキン。ゾーキンをしぼる。よろこぶ。桃太郎。コーヒーを飲む。